

三重県立上野高等学校
同窓会報

VOL.25

白 HAKUA 亜

事務局：〒518-0873

三重県伊賀市上野丸之内107

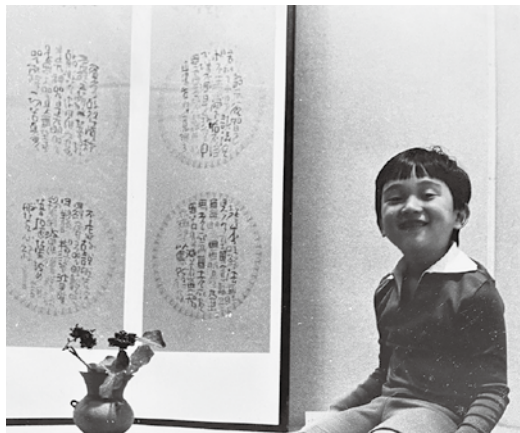
上野高等学校内

TEL & FAX：0595-24-2231

ホームページ：

<http://ueno-hakua.jp>

E-mail：hakua@ict.ne.jp



榊 太基さん(高41回)

さかき・たいき 三重県上野市の19代続く旧家で育つ。中学時代より24年間を祖父莫山とともに暮らす。莫山逝去後は、榊家を守り継ぎながら、家族と愛猫と共に暮らしている。伊賀市在住。

三重県立美術館には、寄贈した108の作品が所蔵されている。煩惱と同じだけの数なのは偶然ではなく祖父の意向。その中には、あのゴビ砂漠の思い出



カニ

中3の春、暮らしは急展開する。学校をドロップアウトしたことをきつかけに、私と妹、そして犬一匹を連れた母は、榊家に戻ることになったのだ。その頃、祖父父母は伊賀に居をUターンしていた。還暦を迎えてから三人暮らし一匹の面倒をみていくことは並大抵のことではなかっただろう。独りで仕事を続ける祖父は「この子ら大きなまでは頑張らな、あかんねん。」と、自分の尻を叩いていたと聞く。それを使うと、今も胸の奥がキュンとするのだ。仕事一筋で、俗を嫌い、友人すら持たない祖父の隣には、明るく社交的な祖母がいた。祖母は詩人であり、敏腕マネージャーであった。作品にいろいろと注文をつけられるのは世界中で祖母ひとりだけなのだ。煩そうにしながらも諦めて聞いている莫山。なるほど、二人三脚の莫山芸術なんだなあ、と合点がいった。喧嘩したって、どこにだって連れ立って出かけていく二人の姿を見て、微笑ましく思ったものだ。そんな中、書の源流から繋がるアバ

「これ、ええやろ！」次は生誕110年か？また、オジイチャンの作品に会える日が楽しみである。

今思えば、禅僧に傾倒し、何ものにもとらわれない祖父らしいことばだ。その後、作品の行先は家族に任されて、いくつかの選択肢の中から、三重県立美術館に落ち着くこととなった。寄贈の準備のためアトリエで作品を整理していると、「これ、ええやろ！」嬉しそうに祖父の笑顔。そうだ、あんなこと言っただけで燃やせる筈がないんだ。作品群の中に、二人訪れ

人の世話になることを嫌う性分の祖父ではあったが、足腰がずいぶん弱っていた。普段は家族も立ち入れない仕事場で、作品の整理を手伝えたことがとてもありがたかった。あれから十七年か。生きていたならちょうど百歳。タバコと甘いものが大好きで、糖尿病に心筋梗塞。そんな長生きする訳もなかったが、生誕100年を迎えるこの春、あの時、燃やされずにすんだ祖父の作品たちに再会することができた。

て、馬のシッポくらい大きな筆に、不思議な石の群れ、見たこともないでっかい紙の束。それが何だかよく解らなかったが、子どもの好奇心を満たすには十分なものであった。整頓された文房四宝(筆・墨・硯・紙)の隣には、大量のタバコの吸い殻までもがキレイに整えられていた。

独特の匂いがするこの部屋で、ある時、バツタリ、オジイチャンに出くわした。祖父は笑顔でこう言った。「宿

後日、砂漠の写真は図録の表紙に採用された。「これ、ええやろ！」嬉しそうに祖父の笑顔だった。

祖父 榊莫山 生誕100年に想う

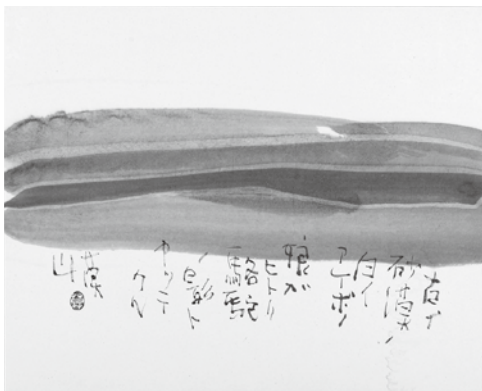
月の砂漠をはるばると旅のらくだがいきました

まった。

取材一団は、敦煌を抜けて、ゴビ砂漠に辿り着いた。鼻歌を歌いながら、着物で佇む祖父の後姿がなんとも叙情的だ。思わずカメラを向けてしまった。

ゴビ砂漠の旅に同行

二十歳になり、かばん持ちとして中国での長期取材に同行する機会に恵まれた。果てしなく続く農道を眺める車窓からは、莫山ワールドにつながる空気が感じられた。食堂で話す祖父のハチャメチャな中国語が愉快であった。「チーパオラ、チーパオラ！」



古イ砂漠ノ

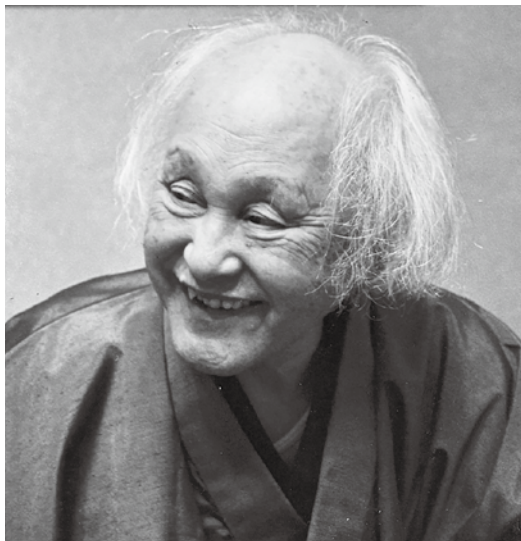
文房四宝と 学びの大きさ

オジイチャンは優しくかった。圧倒的に優しくかった。ちいさいころは離れて暮らしていたため、母に連れられて、盆や正月に里帰りすることが何よりの楽しみであった。当時、大阪に住んでいた祖父は、河内山本駅近くのスーパまで、自転車に乗せてくれた。孫に駄菓子でも持たせようと思ったのであろう。大きな背中に、大きな手、ガタガタするオンボロ自転車ではあったが、しがみつく道のりで感じる背中の中の温もりは幼心にも嬉しいものであった。

また、祖父の仕事場にこっそり忍び込むこともお気に入りのひとつであった。玩具のピストルに亀の甲羅。そして

「古イ砂漠ノ」も含まれている。「生誕100年 榊莫山展」閉館間際に訪れた美術館は貸し切り同然だ。誰にも邪魔されない空間にひとり立つとノスタルジックな気分が湧き上がってくる。

伊賀市が生んだ孤高の書家。後半生には伊賀弁の語り口やユーモラスなテレビコマーシャルで広く親しまれた榊莫山さん。今年はその生誕百年にあたり三重県立美術館で記念展が開催された。著名な祖父を身近で見て育った孫の太基さんにその素顔を紹介してもらった。



榊 莫山さん(中40回卒)

さかき・ばくざん 1926年三重県上野市生まれ、2010年没。書家・辻本史邑に師事。日本書芸院展、奎星会展などで最高賞を連続受賞するも書壇を退き独自の創作活動へ。「土」「女」シリーズや「詩書画三絶」の独自の世界を切り開く。テレビ番組やCMにも多数出演。晩年までほぼ毎年個展を行い著書は100冊を超える。

笑顔で「これええやろ」「全部、燃やしてもたええ。」

たゴビ砂漠を描いた作品も見つかり、懐かしい気分が蘇ってきた。あの頃、オジイチャンはまだまだ元気だったよなあ。

魅力ある同窓会活動を目指して



同窓会会長 土肥(旧姓 木澤) 稔治

皆様方に於かれましては日頃から同窓会に対しご協力をいただきありがとうございます。この場をお借りしてお礼申し上げます。

令和6年11月の総会において会長を拝命して2年目に入りました。その間、会員の皆様からご意見や役員会での様々な議論を経て皆様にお知らせすべき事項がありますので、ご挨拶を兼ねてお知らせします。

まずは、同窓会ホームページのリニューアルです。以前のHPは上野高校の回線を利用しており、更新は学校の関係者以外には出来なかったのですが、新しいHPでは独立した回線となり利便性が向上しました。今後は、皆様方

探究学習の深化を推進



学校長 服部 秀一

同窓会の皆さまにおかれましては、平素より本校に多大なるご支援を賜り誠にありがとうございます。心より厚く御礼申し上げます。令和8年四月一日付で本校に着任いたしました服部秀一と申します。母校に戻り勤務できまことに深い感慨と大きな責任を感じております。校訓『自強不息』の精神のもと受け継がれてきた伝統を未来へとつなぎ、本校が地域の子どもたちの学びを支えさらなる発展を遂げることができるよう全力を傾け取り組んでまいります。どうぞよろしくお願いいたします。

この四月、全日制学際探究科一六〇名、理数科八〇名、定時制普通科七名の新入生を迎え、新年度をスタートしました。入学式では、アメリカの文化人類学者マーガレット・ミードの「未

出来るだけ新しい多くの情報をお届けすることが出来ると考えていますので、HPをご覧頂き同窓会や学校の新しい情報を見て頂きたいと思ひます。また、ご存じない皆様にも広くお伝えいただけると幸いです。

二つ目に、同窓会紙「白亜」の発行方法の変更です。これまで、全会員の方に会報をお届けしていただきましたが、膨大な費用がかかり予算をひっ迫していました。そこで不本意ではありますが今回から、昨年度会費を納入していただいた方に限り紙ベースで送付させていただくことにしました。その代わりに刷新したHPには電子媒体の「白亜」の1号からバックナンバーも掲載してありますので、利便性も向上していると考えています。

三つめは、昨年、京阪神支部が諸事情により解散されました。しかし、有志の方から新たに関西支部を立ち上げたとの申し出があり、世話人会を発足して7月に発足総会が開催されました。新たな支部が誕生したということで、これまでの努力に感謝するとともに、今後の関西支部の発展をお祈りします。

もう一つは、旧制服のアクリルスタ

来とは、今である。」という言葉を紹介し、「未来はすでに今ここから始まっている。目標を掲げ、その実現に向けて一歩ずつ進み、本校で可能性を広げてほしい。」という思いを伝えました。新入生は、その言葉をしっかりとした眼差しで受けとめてくれたことと思ひます。

五月には県総体(インターハイ県予選)で、多くの部活動が活躍しました。六月には雨天の影響で延期となったものの、体育祭を全プログラム実施することができました。生徒たちの満面の笑みや競技に向けた真剣な表情から、清々しい感動が寄せてきました。

さて、ご存じいただいておりますとおり、文部科学省からの指定を受けているSSH(スーパーサイエンスハイスクール)事業ですが、今年度で二期の3年目(通算8年目)を迎えております。先進的な科学技術に触れ、探究的な学びを通して科学的な思考を養うとともに、『国際舞台で活躍することのできる人材の創出』を目指し学習活動を進めているところです。

そして、昨年度、本校は普通科に代わり、現代の諸課題に対応する力を育むことを目指し、探究学習を重視した「学際探究科(4クラス)」を設置しま

ンドの製作・販売です。令和6年度の制服の変更に伴い、現3年生が卒業する令和9年3月1日をもって旧制服がなくなります。これまで同窓生が親しんできた制服を何とか形にして残すという趣旨で、制服のアクリルスタンドを製作しました。同窓会が販売していますので青春の思い出でもある制服を、アクリルスタンドを通して思い出していただければ幸いです。

会長に就任した時、同窓会会則の目的を私なりに読み替えて目標として掲げた「同窓会員に貢献すること」「母校に貢献すること」が実現出来ているかはなほ疑問ですが、アクリルスタンドの製作の際に、生徒の皆さんとのコラボレーションを通して、生徒の皆さんにとって同窓会が身近なものに感じてもらう、私どもも学校との関係を密にしていくなことを実感しました。

今後、会員の皆様方の親睦友誼を図ることはもちろんですが、学校に対する貢献も大切にしていきたいと考えていますので、今後ともご支援ご協力をお願い申し上げて挨拶とさせていただきます。

(高24回卒)

した。地域社会を学びの場とし、生徒が自ら問いを立て、協働しながら学びを深める実践的な探究活動を推進してまいります。一方、理数科については、よりきめ細かな指導と学習プログラムの充実を図るため、2クラスといたしました。これまでの実践を礎に課題解決に向けた学習と探究活動の深化を進めてまいります。

創立127年を迎える本校において、国内外のさまざまな分野、ステータジでご活躍されている卒業生の皆さまは、本校生徒にとって誇りであり、心強い存在であります。とりわけ、後輩たちの成長を期待し、学校の様々な活動において生徒と関わってくださる卒業生の皆さまからは、生徒がキャリアアップを考えるうえで、かけがえのない学びの機会を数多くいただいております。そのご支援ご協力に深く感謝申し上げます。

今後とも、後輩たちの歩みを温かく見守っていただき、変わらぬご指導とお力添えを賜りますようお願い申し上げますとともに、末筆ではありますが、同窓会の皆さまのご健勝とご多幸を祈念申し上げ、ご挨拶とさせていただきます。

(高38回卒)

各回のつどいから

高13回

私たち13回生は、卒業後30年目の節目に第1回同窓会を開催して以来、2年毎の同窓会を楽しんできました。コロナ禍でしばらくの中断を余儀なくされていましたが、令和5年に、5年ぶりの同窓会を再開しました。この間に逝去された方、体調不良や足腰の弱りから参加を断念された方、遠方に転居された方などの返信が多く寄せられ、私たちの年代にとって5年間の重みを改めて感じたものでした。

そして傘寿を経た令和7年11月8日、割烹旅館三田清で開催し各地から32名の方が元気に参加されました。

テール毎の5分間スピーチでは、青春と人生のスタートだったと高校時代の思い出を語る方、これからの夢や目標を熱く語る方、曲折のあった人生から得た教訓を淡々と話される方、ゴルフ好きが集まって「上高37ゴルフ会」を結成し、毎月1回のコンペを20数年続けていると番外同窓会の報告も。

次回開催について、頑張っておられる諸先輩に我々も続くべしと満場一致で決定しました。(幹事一同)



高27回

令和8年1月4日、ヒルホテルサンピア伊賀で開催、55名が参加。

自主的に演奏を買って出てくれた友のジャズピアノに聴き惚れ、席を立つたり代わったりしての昔話に花が咲き、3時間があっという間に過ぎました。

写真を送るために、同窓会のライングループに参加を呼び掛けると友が友を呼び65名に。当日の夜から数日は、写真・お礼・感想の送信でライン着信音の連発でした。

前回は2年前、400人程に案内を発送も住所不明、物故者、返信無しも多く今回は212名に案内発送。案内が届けられない方への配慮として、付き合ひのある同級生へ開催の声掛け確認が必要でした。

熟慮の上にお正月開催としましたが、孫が来る・家族が集まる等による欠席理由が目立ち、今回は春の平日開催を考えようとなりました。

締めめの挨拶では、男性の健康寿命は72歳、女性は75歳、これから多く同窓会に参加出来ないで毎年開催でも良いですね、と話され毎年開催に賛成のムードが漂いました。

高28回

令和7年11月22日(土)に上野フレックスホテルで開催され、卒業生40人中99人が出席しました。

我々の学年では上高創立100周年の時に全クラス規模で行って以来、2回目の大きな同窓会となりました。

開催のきっかけは同年3月に名張で開かれた同級生であるオーストリアウィーン在住のピアニスト・山田佐和子さんの凱旋ピアノリサイタルでした。

終演後、ロビーで約20人程の同級生たちが彼女を囲んで、楽しそうに話している様子を山添村村長の野村栄作君が見ていて、私に「やっぱり同級生が集まるのは良いもんやなあ、川村君幹事で全体の同窓会やってくれへんか?」と声掛けされたのです。

4月に入り野村君、小島淳子さん、藤森真理さんと私の4人で幹事会を立ち上げました。まず最初の大問題は、卒業後48年経過していて消息がわからない同級生が数多く、いかにして開催のお知らせを伝えるかでした。

そこで方法として、各中学校単位で地元に住んでいる人からメールやLINEなどで連絡先がわかる人達に伝え

てもらったり、クラブ繋がりと同様に連絡してもらったり、私の地元の旧阿山郡の卒業生の実家にはお知らせをポストイングするなどの手段を使いました。お盆過ぎには40人位の出席連絡があったものの10月になると参加の連絡が殺到しました。

ランダムに決めた席ではほぼ初対面の同級生も顔を合わせますが、不思議なもので旧知の間柄の様な会話がなされています。

さて、陶芸家の谷本洋君の乾杯発声の後、しばし歓談。お酒も入ると会話も更に弾んでいきます。その後山田佐和子さんのピアノ演奏に皆で聴き入ったり、合唱部のリードで校歌と第二応援歌を歌ったり時間があつという間に過ぎて行きました。

笑顔、笑顔の楽しい2時間でした。次回の開催は決められませんが、それが、それまで皆元気でね!とお開きとなりました。(文責:川村剛司)

高30回

サッカーワールドカップの開催年ごとに開く予定が、コロナ禍があったため8年振りの開催となりましたが、88名の同窓生が、2月22日サンピア伊賀の会場に集まりました。

概ねの方が定年を迎える年となった2026年、様々な人生を歩んで来た顔、顔、顔「お久しぶり振り」、「えっ誰」といった笑い声や嬉し涙やらの感激の声、そして少し寂しい報告も混じりあった中、大いに盛り上がりながら無事開催する事ができました。

また、今回は案内はSNSを多く活用し、幹事さんの負担や経費面を少し緩和できたのではないかと感じています。そして、次回の開催に向け各クラス幹事を改めて決め、元気に再会を誓いあつての貴重な思い出の1日となりました。(保田耕三郎)

寄付

高第28回卒業生ご一同より 10万円



支部だより

東京支部

2026年度同窓会東京支部新卒業生歓迎懇親会は42回目を迎え6月14日に銀座三笠会館で開催。土肥稔治同窓会長（高24回）、服部秀一校長（高38回）、理科の小倉一輝先生（旧三学年担任）のご出席を頂き、新卒業生4名、上級学生5名、支部会員26名、合計38名が参加しました。



来賓のご挨拶、歓談や自己紹介、書籍贈呈などを通じて交流を深めるとともに、先輩方から後輩へ温かい激励が贈られ、和やかな会となりました。最後に全員で恒例の校歌斉唱と記念撮影が行われ、会は盛会のうちに終了しました。

(支部事務局長・高22回 出口正尚)

関西支部

設立総会開催

昨年の同窓会総会で承認された「関西支部」の設立総会が七月十二日、大阪キャッスルホテルで開かれました。土肥稔治同窓会長、服部秀一上野高校校長ら来賓をはじめ約四十名が出席されました。会則、役員、事業計画、予算案が賛成多数で承認されました。八十歳代の方も出席され世代を超えた交流の場になりました。

関西支部は、「令和のクラブ活動」として同窓生が広く集い続けられる新しい形の支部活動を目指しています。会費は徴収せず、幅広い世代が気軽に交流できるオンラインミーティングを定期的に開催する予定ですが、電子媒体が不得手な方には紙の会報をお届けします。既に近畿二府四県に在住または勤務する卒業生の八十名以上の方が会員登録をされました。さらに多くの方々のご参加をお待ちしています。

▼主な役員▶ 代表コーディネーター 奥田浩介（32回）、副代表 瀬木英俊（32回）、会計 岡林光明（41回）、会計監査 中井志郎（41回）
▼問い合わせ先 090-3966-4310（奥田）
Eメール nekoukansai@gmail.com（報告 奥田浩介）

令和8年度(2026年) 総会のご案内

とき 11月8日(日)

■14:00～記念講演 ■15:00～総会
■16:00～懇親会(会費3,000円)

ところ ヒルホテルサンピア伊賀

伊賀市西明寺 2756-104 ☎ 0595-24-7000

記念講演

講師 福永 和伸さん (高30回)

三重大学特命教授（地域連携担当）
前三重県教育委員会教育長



演題 「県立高校の今後の状況」

懇親会アトラクション

コーラスグループ Quadrifoglio (クワドリフォーリオ)

藤森唯史（高25回）、藤森真理（高28回）他

現代語訳「校正伊乱記」

32回の有志で出版

昨年末「校正伊乱記」本邦初の全編現代語訳を、伊乱記を読み解く会（32回卒・田山健二、峠美晴、原野由里、菱井範子、福田成生、宮田隆、森中秀哲、山菅満智子、山出善章〔五十音順〕、福田和幸先生）が上梓しました。表題は書家峠の筆、装丁は森まりも（原野の長女）、という手作り本です。

伊乱記は織田信長と信雄による伊賀侵略時の（天正伊賀の乱1579、1581）伊賀総力の抗戦記で、まだ戦の傷跡が残る時に書かれ唯一現存する書物です。延宝七年（1679）菊岡如幻（きくおかじよげん）が著し複数の写本が読み継がれました。それらを明治三十年（1897）に百地織之助（ももち おりのすけ）が再編したのが今回の底本「校正伊乱記」です。戦では伊賀人口の約1/3（約3万人）が殺されました。そして9ヶ月後に織田信長は本能寺の変で明智光秀に討たれたのです。

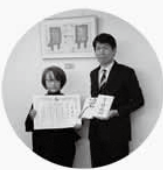
私たちは首都圏、大阪、伊賀に離れて住んでおり2021年8月〜2023年3月、隔週のオンライン会議で「伊賀市 デジタルミュージアム 秘蔵の国伊賀」にある校正伊乱記を輪読しました。そのまとめが今回の本です。遠く離れた仲間がリアルタイムに繋がりを、くずし字の読み方から始まり、漢文混じりや唐突な七五調、中国故事や日本

ホームページを一新

令和8年5月15日より同窓会本部のHPを一新し、新たに運用を始めました。これまでがらく学校のHP内にぶら下げる形で同窓会のHPを運営してきましたが、この形では学校の教員を通じてしか更新ができないという問題があり、懸案事項とされてきました。

そんな中、近年の同窓会会計の赤字傾向を解決するため、会報【白亜】の全会員への郵送をやめ、印刷版は前年度の会費を払った会員と卒業後3年目までの会員のみに郵送することとなり

信長は英雄なのか!?
伝えたい伊賀最大の決戦



伊賀市・名張市の図書館、中学校に献本しました。今後、高校にも献本してまいります。



書店、Amazon、楽天ブックスで販売中
定価(税込)：1,760円、kindle版 660円

の古典からの引用を調べ、江戸、明治の先人が描いた戦国の出来事を現代の私たちが読み解く面白さとともに、字（あざ）の名前が現在と同じ、登場する名字の多くのお家は今も伊賀にお住まいなど、身近に感じる本でした。また史跡の現地調査では伊乱記中の奇想天外な話、常住寺の一寸八分の閻魔像、美旗の馬塚、烏ヶ原の焦げた旗の話などで盛り上がりました。仲間と共有した貴重な時間を生忘れれる事はありません。

ソフトカバー版は伊賀上野城・伊賀百貨・井筒屋書店あかもん店・岡森書店白鳳店（以上伊賀市）、ブックスアルデ名張本店（名張市）、Amazon・楽天 Books で、Kindle 版（電子書籍）は Amazon で販売中です。伊賀・名張市の中学校、市立図書館に献本を終え、現在高等学校に広げています。現代語訳を通じ、伊賀に関係する方々に若い層に伊乱記の魅力が伝われば幸いです。（高32回 山出善章）

図書への寄贈

「伊賀上野の文化史年表（昭和・平成編）」

北出楯夫（高10回）



◆庄巻の文化史年表

伊賀上野は「歴史と文化の町」というようなフレーズがあった気がする。が、多くの人は、お城があり、芭蕉ゆかりの場所があり、城下町のたたずまいがそこに残っているイメージを何となく言うのではないだろうか。

しかし、「文化の町」とは、一人ひとりの文化につながる営みの集積が実体として形成するものといえる。では、その集積はどうして可視化できる

のか。一人の郷土史家が「伊賀上野の文化史年表（昭和・平成編）」という形でその答えを出された。北出楯夫さん（高10回）の労作である。

大正十二年（1923）から令和五年（2023）までの百年に及ぶ多様な文化的事象が列挙されている。長年の地道な調査と膨大なメモの蓄積の結果である。単なる年表に留まらず件名索引、人名索引によって探したい項目を即座に引けるようになっている。件名索引は一二〇〇項目を超え、人名索引は実に二九〇〇人を超えている。歴史上の人物や著名人も含んでいるが多くの伊賀の地で生活をする市井の人や伊賀の地に影響をもたらした人々たちである。

例えば、大正十三年には上野中学蹴球部が全国中等学校蹴球選手権大会で優勝との項もある。昭和三年には上野中学から教諭、卒業生、在校生の三人が帝展に同時入賞という記述もある。上野中学、上野高校に関する項目は次々と見つかる。

非売品として発刊されたが図書館、学校などでぜひ一読を。

（高18回 福田和幸）

令和6年度(令和6年10月1日～令和7年9月30日) 上野高等学校同窓会一般会計収支決算書

1. 収入の部 (単位: 円)				
科 目	予 算 額	決 算 額	対比増減(△)	
1. 前年度繰越金	1,043,041	1,043,041	0	
2. 入会金	2,890,000	2,850,000	△ 40,000	
3. 年会費	4,000,000	4,141,200	△ 141,200	
本年度会費	4,000,000	4,141,200	141,200	
4. 特別積立金より繰入	0	1,007,163	1,007,163	
5. 雑収入	566,959	879,298	312,339	
合 計	8,500,000	9,920,702	1,420,702	

2. 支出の部 (単位: 円)				
科 目	予 算 額	決 算 額	対比増減(△)	
1. 会議費	720,000	713,268	△ 6,732	
総会費	600,000	603,352	3,352	
諸会議費	120,000	109,916	△ 10,084	
2. 運営費	1,710,000	1,908,770	198,770	
事務局人件費	600,000	641,650	41,650	
事務消耗品費	10,000	8,532	△ 1,468	
電気・通信費	350,000	335,743	△ 14,257	
旅 費	200,000	261,000	61,000	
渉外・慶弔費	120,000	135,000	15,000	
一般印刷費	20,000	0	△ 20,000	
振込手数料	400,000	526,845	126,845	
雑 費	10,000	0	△ 10,000	
3. 事業費	5,120,000	5,492,239	372,239	
a) 会報発行費	5,020,000	5,392,239	372,239	
会報編集費	10,000	9,160	△ 840	
会報印刷費	1,800,000	2,733,916	933,916	
会報封入費等	350,000	392,700	42,700	
会報郵送料	2,860,000	2,256,463	△ 603,537	
b) 講演会等開催費	100,000	100,000	0	
上高同窓会懇親活動費	100,000	100,000	0	
4. 助成費	550,000	430,000	△ 120,000	
支部助成費	350,000	350,000	0	
学年同窓会援助費	200,000	80,000	△ 120,000	
5. 備品等整備費	20,000	17,700	△ 2,300	
備品費	10,000	7,700	△ 2,300	
図書費	10,000	10,000	0	
6. 学校費	380,000	336,250	△ 43,750	
事務補助費	10,000	0	△ 10,000	
事業補助費	260,000	256,250	△ 3,750	
庭園整備補助費	10,000	0	△ 10,000	
全国大会出場奨励費	100,000	80,000	△ 20,000	
7. 予備費	0	0	0	
小 計	8,500,000	8,898,227	398,227	
次期繰越金	0	1,022,475	1,022,475	
合 計	8,500,000	9,920,702	1,420,702	

令和7年度(令和7年10月1日～令和8年9月30日) 上野高等学校同窓会一般会計収支予算書

1. 収入の部 (単位: 円)				
科 目	本年度予算額	前年度予算額	対比増減(△)	
1. 前年度繰越金	1,022,475	1,043,041	△ 20,566	
2. 入会金	2,500,000	2,890,000	△ 390,000	
3. 年会費	4,000,000	4,000,000	0	
年会費	4,000,000	4,000,000	0	
4. 雑収入	977,525	566,959	410,566	
合 計	8,500,000	8,500,000	0	

2. 支出の部 (単位: 円)				
科 目	本年度予算額	前年度予算額	対比増減(△)	
1. 会議費	1,020,000	720,000	300,000	
総会費	900,000	600,000	300,000	
諸会議費	120,000	120,000	0	
2. 運営費	2,190,000	1,710,000	480,000	
事務局委託費	650,000	600,000	50,000	
事務消耗品費	10,000	10,000	0	
電気・通信費	350,000	350,000	0	
旅 費	150,000	200,000	△ 50,000	
渉外・慶弔費	120,000	120,000	0	
一般印刷費	10,000	20,000	△ 10,000	
振込手数料	400,000	400,000	0	
雑 費	500,000	10,000	490,000	
3. 事業費	2,060,000	5,120,000	△ 3,060,000	
a) 会報発行費	1,960,000	5,020,000	△ 3,060,000	
会報編集費	10,000	10,000	0	
会報印刷費	1,300,000	1,800,000	△ 500,000	
会報封入費等	200,000	350,000	△ 150,000	
会報郵送料	450,000	2,860,000	△ 2,410,000	
b) 講演会等開催費	100,000	100,000	0	
上高同窓会懇親活動費	100,000	100,000	0	
4. 助成費	700,000	550,000	150,000	
支部助成費	500,000	350,000	150,000	
学年同窓会援助費	200,000	200,000	0	
5. 備品等整備費	20,000	20,000	0	
備品費	10,000	10,000	0	
図書費	10,000	10,000	0	
6. 学校費	920,000	380,000	540,000	
事務補助費	10,000	10,000	0	
事業補助費	800,000	260,000	540,000	
庭園整備補助費	10,000	10,000	0	
全国大会出場奨励費	100,000	100,000	0	
7. 特別積立金	1,500,000	0	1,500,000	
会員連絡積立金	1,500,000	0	1,500,000	
8. 予備費	90,000	0	90,000	
予備費	90,000	0	90,000	
合 計	8,500,000	8,500,000	0	

母校の現況

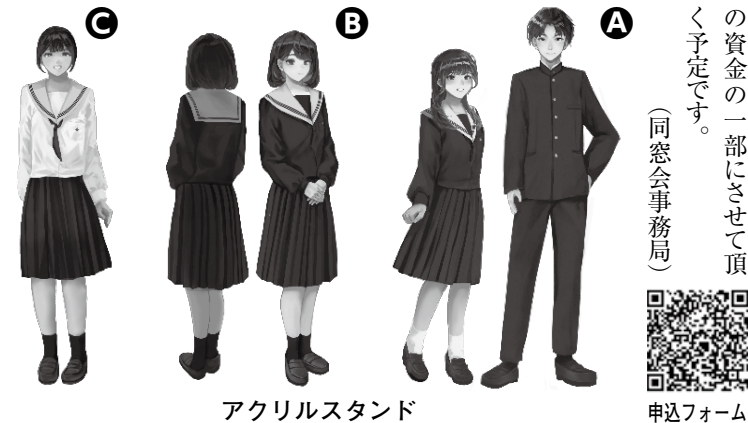
青春の思い出
制服アクリルスタンド

昭和30年(1955年)以来72年間にわたり生徒はもちろん伊賀市民に親しまれて来たセーラー服及び学生服の制服が、令和9年3月1日の78期卒業式をもって廃止されます。卒業生にとっては上野高等学校を象徴する制服でしたが、時代の流れと共に変化する教育環境により制服の変更は致し方ありません。同窓会はこの制服の変更に、上野高等学校が更なる発展を遂げ素晴らしい学校へと成長することを願っています。

そこで、この高校時代に慣れ親しんだ制服を思い出だけにするのは億び難く何とか形に残そうと考え、廃止される制服のアクリルスタンドを製作・販売することにしました。製作に当たっては、同窓会と美術部、現3年生のメンバーが中心となって活動する「上高セーラーメモリーズ」が協力して製作したもので、企画は同窓会、原画は美術部、アドバイスは上高セーラーメモリーズが行いました。

形はA、B、Cの3種類を用意しています。販売方法は、上野高校同窓会のホームページに「申込フォーム」が

ありますのでご覧いただき、たくさん皆様のご購入をお待ちしています。制服は、単なる思い出だけでなく青春の1ページでもあると思います。本記事をご覧になり興味を持たれた方は、お知り合いの方などに情報を伝えていただきますようお願いいたします。



アクリルスタンド

上高セーラーメモリーズ

来年3月で廃止となるセーラー服を記録に残したいと、3年生の女子生徒9名がInstagramで発信活動を行っています。探究学習をきっかけに今年1月9日にアカウントを開設し、卒業式まで毎日交代で投稿を続けています。日々多くの「いいね」や温かいコメントが寄せられ、生徒たちは活動を通してセーラー服への愛着を一層深めているそうです。『セーラー服にルーズソックス』を履いていた時代があったという事を聞き、その当時のお写真をお持ちの方がいらしたら、是非とも共同投稿していただきたいそうです。また卒業後も、このアカウントが卒業生の皆さまによって受け継がれ、母校のセーラー服の歴史や思い出をつなぐ場として残って欲しいそうです。目標はフォロワー15000人。皆様のフォローと共同投稿をお待

台湾研修から姉妹校提携へ

1月27日、台湾の国立南科国際実験高級中学一行を迎え、和やかな雰囲気の中、姉妹校提携の調印式が行われた。台湾との交流は、2019年から始まった文部科学省が指定するSSH(スーパーサイエンスハイスクール)の取り組みのひとつだ。台湾研修は視野を広げること、英語で交流することを目的に、去年の4月からスタート。今回で3回目になるが、姉妹校提携は台湾の校長先生から持ち掛けられた。

南科国際実験高級中学は、世界的に有名な半導体の大手メーカー TSMCに隣接しており、ここで働く社員の子が多く通う。勉強の意欲も英語で話そうとする意欲も非常に高いという評判に、本校生徒も最初は気負っていたようだが、流暢な英語で代表挨拶をしていた生徒会長井村天喜さんは「第二言語者同士、よく似た会話レベルでちょっと安心しました」。参加した生徒のほとんどがインスタを交換し、今も個別に連絡を取り合っているそうだ。

担当の犬飼将登教諭は「ただ交流しているだけではSSHの目的である科学技術人材の育成にはつながらない。姉妹校提携のおかげで共同研究も進めやすくなった。年を追うごとに発展させていきたい」と今後の展望を話している。



視聴覚室にて両校揃って記念撮影

部活動報告

- 【陸上競技部】
R7年度
○第68回東海陸上競技選手権大会
男子5000m W 出場 3年 荒川 泰生
男子5000m W 2年 斧 良磨
- 第28回東海高等学校新人陸上競技選手権大会
男子5000m W 出場 2年 斧 良磨
- 女子1000m H 出場 2年 斧 良磨
- 女子400m H 出場 2年 大藪 幸奈
- R8年度
○第73回東海高等学校総合体育大会
陸上競技 男子5000m W 出場 2年 岩城 快音
- 女子1000m H 出場 2年 岩城 快音
- 女子400m H 出場 3年 大藪 幸奈
- 女子400m H 出場 3年 大藪 幸奈
- 【卓球部】
R7年度
○第55回後藤林卓球選手権大会
出場 2年 松永 遥人(ジュニアシングルス)
2年 小林 由奈(ジュニアシングルス)
1年 長谷川 心絆羽(ダブルス)
○第65回東海卓球選手権大会
出場 2年 松永 遥人(ジュニアシングルス)
2年 山口 来晟(ジュニアシングルス)
2年 熊代 結斗(ジュニアシングルス)
2年 小澤 由奈(ジュニアシングルス)
2年 小澤 咲月(ジュニアシングルス)
1年 長谷川 心絆羽(ジュニアシングルス)
○第53回全国高等学校選抜卓球大会東海選考会
兼令和7年度東海高等学校新人卓球大会
女子学校対抗の部
出場
R8年度
○第78回中部日本卓球選手権
出場 2年 長谷川 心絆羽(ジュニアシングルス)
2年 阪本 知花
- 【美術部】
R7年度
○第15回大阪成蹊全国アート&デザインコンペ
ティション
- 大阪芸術奨励賞 3年 森岡 華子
佳作 2年 森岡 綾子
2年 瀬戸山 アユミ
- 優秀学校賞
◎世紀のダ・ヴィンチを探せ! 高校生アートコンペティション 2025
大阪美術高等学校特別賞 3年 ホリノ ユキナ
部門別最優秀賞 3年 竹住 友香
入選 2年 福田 優衣
◎全国公募 第9回鉛筆デッサンコンクール
入選 3年 ホリノ ユキナ
2年 篠本 琳之介
1年 松浦 ひかり
- 第45回近畿高等学校総合文化祭鳥取大会
三重県代表 3年 竹住 友香
- R8年度
○第46回近畿高等学校総合文化祭兵庫大会
三重県代表 3年 奥深 綾菜
- 【ギター・マンドリン部】
○第43回東海選抜高等学校ギター・マンドリンフェスティバル
努力賞
令和8年度全国高等学校ギター・マンドリン音楽コンクール
出場
○第30回J-BANコンテスト東海大会高校生の部
金賞 3年 中出 葉奈葉
- 【吹奏楽部】
○第59回東海高等学校選取水泳競技
出場
200m 自由形 3年 人見 紬
100m バタフライ 3年 人見 紬
- 【スポーツライミング】
R7年度
○IFSC 世界ユース選手権
U17男子ボルダール競技 3位
○IFSCクライミングユースアジア選手権
U17男子ボルダール 5位
○わたしHIGA輝く国スポ・障スポ2025
スポーツライミング
少年男子ボルダール競技 3位
少年男子リールド競技 8位
- R8年度
○第14回リードユース日本選手権多久大会
U19男子 6位
○第12回ボルダールユース日本選手権倉吉大会
U19男子 6位

陸上部回顧録

顧問 平井 裕司(高33回)

私は平成6年(1994年)から平成14年(2002年)まで、さらに平成27年(2015年)から現在に至るまで、通算21年間にわたり母校・上野高校の教員として勤務し、陸上部の後輩たちの指導に携わってまいりました。2021年度には、日本陸上競技連盟より「高校優秀指導者章」という栄誉ある賞をいただきました。これらひとえに、至らぬ指導にもかかわらず懸命に練習についてきてくれた多くの陸上部卒業生のおかげであり、深く感謝しております。私は2年前に定年退職を迎えましたが、現在も再任用教員として引き続き勤務しております。

ここ数年は大きな飛躍を遂げ、東海大会には10名を超える生徒が出場し、全国大会でも入賞する選手が現れるようになりました。その背景には、地元の小・中学生のクラブチームで活躍した選手たちが、「上野高校で陸上をやりたい」と志望してくるようになったことや、競歩が上野高校長距離の「お家芸」と呼べるほど発展してきたことがあげられます。競歩は体力だけでなく技術の占める割合が高い種目であり、私自身経験はありませんでしたが、県内の先駆的指導者のもとへ生徒を連れて行き、手探りで指導を始めること、生徒たちの吸収力は非常に高く、軌道に乗ると先輩の技術を後輩が学び、組織として技術が継承される体制が築かれていきました。

2017年には女子七種競技の猪岡真穂が全国総体に出場、翌年には村手光樹、荒川尚輝、井上香里が5000m競歩で全国総体に出場し、村手が4位、荒川が7位に入賞しました。村

手はその後も福井国体で5位に入賞し、現在は三重県記録(5000m・10km・20km競歩)を保持し高校教員として後進の指導にあたっています。19年には男子砲丸投で上脇琉雅が全国総体への出場を果たしました。

20年はコロナ禍により東海・全国大会が中止となりましたが、翌年、県総体では男子5000m競歩で113位を独占したのをはじめ、21名の東海総体出場、男女ともに総合4位、男女ともトラック総合3位という成績を収めました。また、仲世古成輝が5000m競歩で優勝し、全国インターハイへ進出しました。女子も県駅伝で6位に入り東海大会出場権を獲得しましたが、残念ながら大会は中止となりました。23年の県総体でも男子5000m競歩で113位を独占、さらに男子4×100mリレー・4×400mリレーともに4位に入るなど、男子総合5位、男子トラック総合3位となりました。しかしこの頃から、女子はやや低迷期に入ります。24年には、杉本湊が全日本競歩では高校男子の部3位と好成績を収めました。大学進学後も競歩を続け、関東新人インカレで優勝するなど、現在も大学のエースとして活躍しています。

そして26年度は、1年生23名、2年生17名、3年生13名と大所帯となり、女子選手も7名が入部するなど、今後の飛躍が期待されます。東海総体にも、3年女子1000mハードル・4000mハードル、2年男子5000m競歩で出場を果たしました。私自身は今後もしばらくは上野高校で指導に携わる予定です。文武両道を実現してこられた先輩方に倣い、これからの部員たちのさらなる活躍を心より願っております。

ふるさと伊賀なう

新図書館が移転オープン

新しい伊賀市立図書館が、上野丸之内のSAKKURABASE(市指定文化財・旧上野市庁舎)内に開館した。建築家・坂倉準三設計のこの建物は、解体の危機を乗り越え、昨年7月には、3階部分にホテル「泊船」が開業し、あわせて2



階部分にカフェと「伊賀百貨」と銘打った土産物・物産売り場が開業した。ホテルの名称「泊船」は、建物の形が大きな船の

ようであることと、伊賀市が生んだ俳聖・松尾芭蕉の別号「泊船堂」に因んだものである。

今年4月、いよいよ「伊賀市中央図書館」として上野図書館が移転オープンした。開館時間も9時から21時までと、利用しやすくなった。上野図書館は、三重県における近代最初の公設図書館として、明治38年(1905)に史跡・旧崇広堂を利用し阿山郡教育会附属図書館として開設された歴史がある。

上野丸之内の市指定文化財・成瀬平馬家長屋門の内側に、昨年8月にオープンした伊賀流忍者の神髄を体験するテーマパークである伊賀流忍者体験施設「万川集海」とともに、中心市街地再生の「にぎわい忍者回廊整備事業」の起爆剤として、今後のなりゆきが注目されている。(高42回 増田 雄)